

北陸新幹線駅（軽井沢駅、飯山駅）の 視察結果について

令和3年8月3日

1. 視察報告

視察に関する委員からの質問事項に対する確認結果まとめ

委員からの質問事項	視察での結果	該当資料
駅前広場での観光客の送迎方法について	軽井沢駅 ・ アウトレットモールがある南口で観光客の送迎を実施。 ・ 実際には、宿泊施設が多い北口でも観光客の送迎が行われている。北口での送迎車サイズは、中小型。 ・ 交通機能を1つに集約するのではなく、<u>すみ分けをしっかりとるほうがスムーズな動線確保やトラブル抑制に繋がる。</u>	P.2
	飯山駅 ・ 駅の正面口である千曲川口で、観光客の送迎を実施。大型～小型まで送迎を行っている。<u>送迎時のトラブルは起きていない。</u>	P.3
地域住民の新幹線駅の活用・利用方法について	軽井沢駅 ・ 新幹線や在来線を利用する以外の利活用はない。 ・ 地域住民の利用としては、しなの鉄道 中軽井沢駅が参考となる。中軽井沢駅では、<u>地域住民を駅に呼び込むために駅舎内に図書館を整備している。</u>	P.4
	飯山駅 ・ <u>千曲川口の駅前広場の一角で、マルシェや冬のおまつりを実施。駅前での地域の賑わいの場となっている。</u>	P.5
駅や都市施設での観光客を長く滞在させる工夫	飯山駅 ・ 都市施設の中2階部分にベンチと机を整備し、<u>景色を見ながら休憩したり勉強できるスペースを設けている。</u> ・ 都市施設内の観光案内所にも机や椅子を整備。机には充電器が整備されている。<u>駅前広場が目に見えるので、駅前広場の状況を確認しながらバス等を待つことができる。</u>	P.6
駅を活用したまちづくりについて	軽井沢駅 ・ 北口の駅前広場にケヤキを移植したことで、<u>緑を感じられる演出になっており、軽井沢駅の売りにもなっている。</u> ・ 緑地の空間を活用した取組としては、コロナ前はウィンターフェスティバルを10年程実施。地域住民も訪れるイベント。今後は、別荘地の住民も巻き込めるようなイベントにしたいと考えている。	P.7
夏と冬の観光客数の違い 季節に応じて賑わい創出に向けた取組について	軽井沢駅 ・ お盆前の約2週間が繁忙期。町の人口2万人に対し、約15万人の観光客が訪れる。 ※季節に応じた賑わいの演出につきましては、他の質問項目の結果と重複する為、省略。	—

1. 視察報告

(参考資料) 北陸新幹線 軽井沢駅 ～駅前広場の配置とその概要～

- ・北陸新幹線軽井沢駅の駅前広場は、北口と南口の2箇所を整備。
- ・それぞれの駅前広場の主な利用状況は、北口が地域住民、南口が観光客となっている。



1. 視察報告

(参考資料) 北陸新幹線 飯山駅 ～駅前広場の配置とその概要～

- ・北陸新幹線飯山駅は、新幹線と在来線の配置の関係で、駅前広場が3箇所（千曲川口・南口・斑尾口）となっている。
- ・駅前広場の整備検討初期には、3箇所の駅前広場それぞれに方面別の送迎機能を持たせる案が挙がっていたが、最終的には公共交通は千曲川口に集約することとなった。
- ・一般車の送迎を斑尾口に設けているが、千曲川口でも一般車の送迎利用が確認されている。



1. 視察報告

(参考資料) しなの鉄道 中軽井沢駅 ～駅舎内に図書館を整備～

- ・中軽井沢駅は、2013年に地域住民を駅に呼び込むために図書館を整備。図書館には、地域住民の他、別荘地の住民も訪れている。



しなの鉄道 中軽井沢駅

(資料: くつかけテラスHP <https://kutsukake-terrace.info/shisetu-anai.html>)

1. 視察報告

(参考資料) 駅前広場（千曲川口）での地域の賑わいづくり

・千曲川口 (8,000㎡)

- ・メイン広場、飯山駅の正面口
- ・高速交通網の拠点、交通結節点
- ・広域観光の玄関口

・一般車、マイクロバス駐車台数(兼用) 17台

・身障者1台

・身障者降車 1台

・タクシー降車 1台

・乗車 2台

・駐車 6台

・バス乗降 3台

・駐車 5台

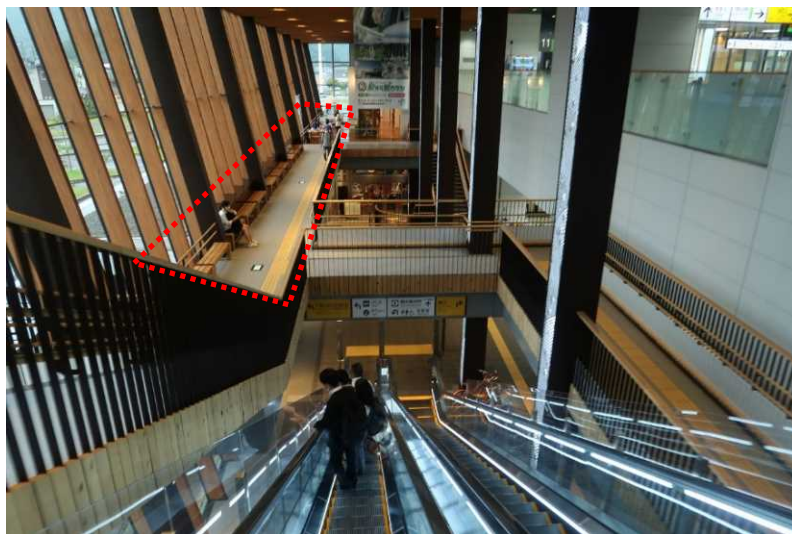
・緊急車両用 1台

検討当初は、森にする計画案があった



1. 視察報告

(参考資料) 北陸新幹線飯山駅の都市施設



都市施設内の休憩スペース



観光交流センター内の休憩スペース

1. 視察報告

(参考資料) 視察駅の緑を感じる景観づくり



軽井沢駅（北口）の駅前広場に移植されたケヤキ



飯山駅（千曲川口）の駅前広場に植栽された樹木



2. 北陸新幹線軽井沢駅

- ・平成9年に開業した北陸新幹線軽井沢駅は、長野オリンピックの開催（平成10年）に合わせるために、わずか4年の非常に短期間で整備された。鉄道・運輸機構整備新幹線の第1号となる新幹線駅。
- ・コンパクトな駅舎で、新幹線開業後に駅利用者のニーズに併せ、改良工事を複数実施。
- ・新幹線開業により東京～長野間の移動時間が大幅に短縮され、日帰りの観光客が大幅に増加。
- ・平成30年3月に、在来線しなの鉄道の改札付近に商業施設「しなの屋KARUIZAWA」がオープン。

開業年月日	平成9年10月1日
駅住所	長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢
新幹線駅の乗車人員	4,042人／日（令和元年度）
駅構造	橋上駅
東京からのアクセス時間	1時間2分（最短）
発車本数	金沢方面（下り）：はくたか10本、あさま18本 東京方面（上り）：はくたか9本、あさま17本
所在市町人口	軽井沢町：18,994人（平成27年度国勢調査）
年間降雪量	軽井沢町：127.3cm（近10か年平均・気象庁）
駅の雪対策	・軽井沢町は風が強いため、冬期は新幹線ホーム（1F）から改札（2F）にまで雪が吹き込んでいた。自由通路部分にも外からの雪が吹き込んでいた。 →改札内の駅舎施設の対策 改札階から新幹線ホームへ移動するためのエレベータ設置部分に、ガラス材の壁を整備。 →自由通路の対策 自由通路に扉を設置するとともに、利用者の転倒防止のために滑り止めのマットを敷いている。（床材が大理石なのでよく滑る）

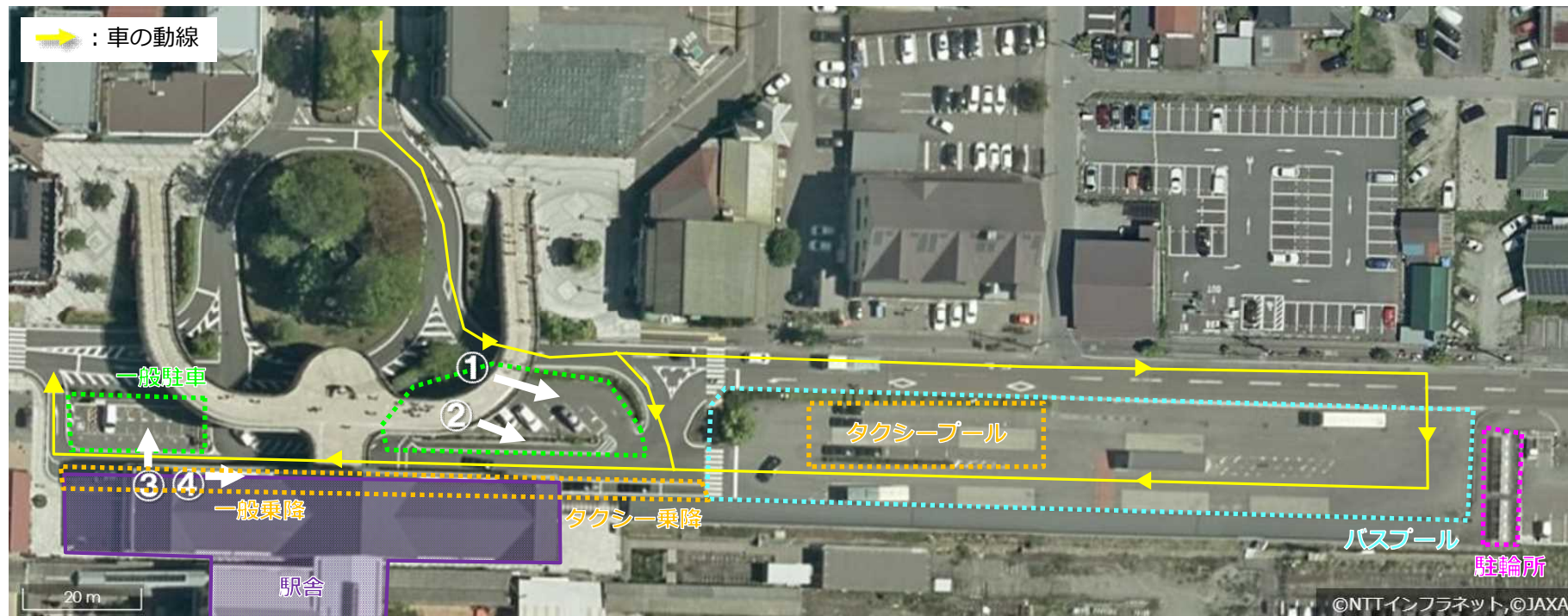


駅舎全景

（上：北口（市街地方面）、下：南口（アウトレット方面）

2. 北陸新幹線軽井沢駅

(1) 駅前広場（北口）について



駅前広場（北口）

○市街地側の駅前広場で、主に地域住民が利用

- ・バス：路線・高速バス乗降（5台）
- ・タクシー：乗降（5台）、停車（20台）
- ・一般：乗降（4台）、駐車場（有料）（15台）、身障者乗降（1台）

一時駐車場の料金：30分間は無料。1時間400円、1時間以上2時間未満600円、2時間以上24時間未満3,000円。



①バス乗り場・タクシープール



②タクシー乗り場・送迎用駐車場



駐車料金を高めに設定することで、コイン
パーキング内での長時間駐車を防止

③送迎用駐車場

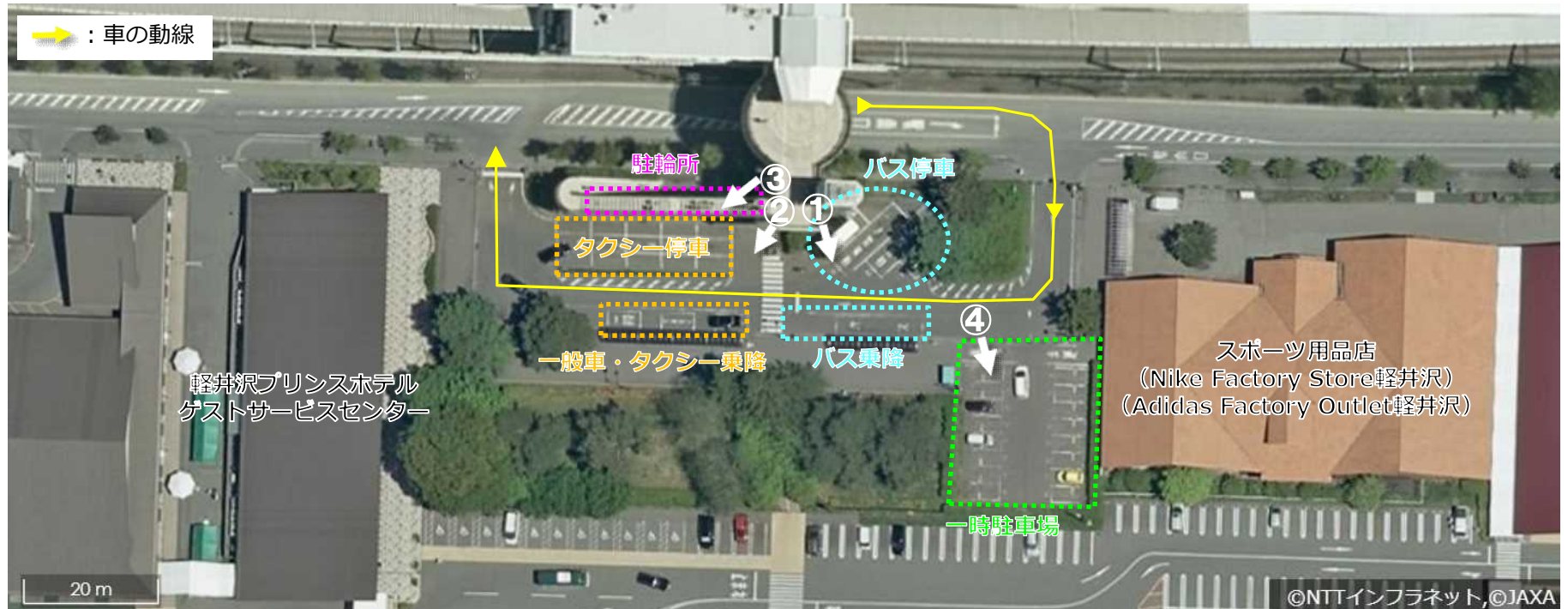


駐車場を利用せず、乗降所に車を停めて駅
を利用する人も多くみられる

④一般車・タクシー乗降場

2. 北陸新幹線軽井沢駅

(2) 駅前広場（南口）について



駅前広場（南口）

- アウトレット側の駅前広場で、主に観光客が利用
- ・バス：観光バス乗降（2台）、駐車(大型)（3台）
 - ・タクシー：乗降（2台）、駐車（12台）
 - ・一般：乗降（1台）、駐車場（有料）（16台）

一時駐車場の料金：30分間は無料。1時間400円、1時間以上2時間未満600円、2時間以上24時間未満3,000円。



①観光バス乗降場、バス駐車場



②タクシー・一般乗降場、タクシープール



③タクシープール、駐輪場



④駐車場

3. 北陸新幹線飯山駅

- ・在来線飯山駅は現駅舎から約300m北側にあったが、新幹線開業に合わせて、新幹線と在来線が交差する現位置に移転し、新幹線駅舎と合築された。
- ・平成27年3月の北陸新幹線長野～金沢間の開業に向けて、新幹線飯山駅周辺地区を中心に、土地区画整備事業、駅前広場・駐車場整備事業等が進められた。

開業年月日	平成27年3月14日 (JR在来線：大正10年10月20日)
駅住所	長野県飯山市大字飯山枡ノ浦
新幹線駅の乗車人員	531人／日（令和元年度）
駅構造	高架駅
東京からのアクセス時間	1時間39分（最短）
発車本数	金沢方面（下り）：はくたか11本 東京方面（上り）：はくたか11本
所在市町人口	飯山市：21,438人（平成27年度国勢調査）
年間降雪量	飯山市：790.9cm（近10か年平均・気象庁）
駅の雪対策	・駅前広場内の自動車が停車する場所には、消雪パイプが整備されており、除雪機が入ることがないようになっている。 ・駅前広場（千曲川口）の出入口部分は、地面にヒートパイプを設置する雪対策を実施。 ・駅前広場（斑尾口）のシェルターは、雪がシェルター内に入らないように、冬期は扉を閉められる構造としている。



飯山駅前広場（千曲川口）



飯山駅前広場（斑尾口）

3. 北陸新幹線飯山駅

(1) 駅前広場（千曲川口）について

- ・千曲川口 (8,000㎡)
- ・メイン広場、飯山駅の正面口
- ・高速交通網の拠点、交通結節点
- ・広域観光の玄関口
- ・一般車、マイクロバス駐車台数(兼用) 17台
- ・身障者1台
- ・身障者降車 1台
- ・タクシー降車 1台
- ・乗車 2台
- ・駐車 6台
- ・バス乗降 4台
- ・駐車 5台
- ・緊急車両用 1台

【参考】千曲川口駅前広場の整備事業費（※区画整理事業で整備）

事業費：約5.8億円（国費：2.2億円、起債：1.8億円、市費：約1.8億円）

※土地区画整理事業により整備しているため、土地代は発生しない。





バス・タクシーの停車スペース

①バス・タクシー乗り場（その1）



②バス・タクシー乗り場（その2）



③バス乗り場



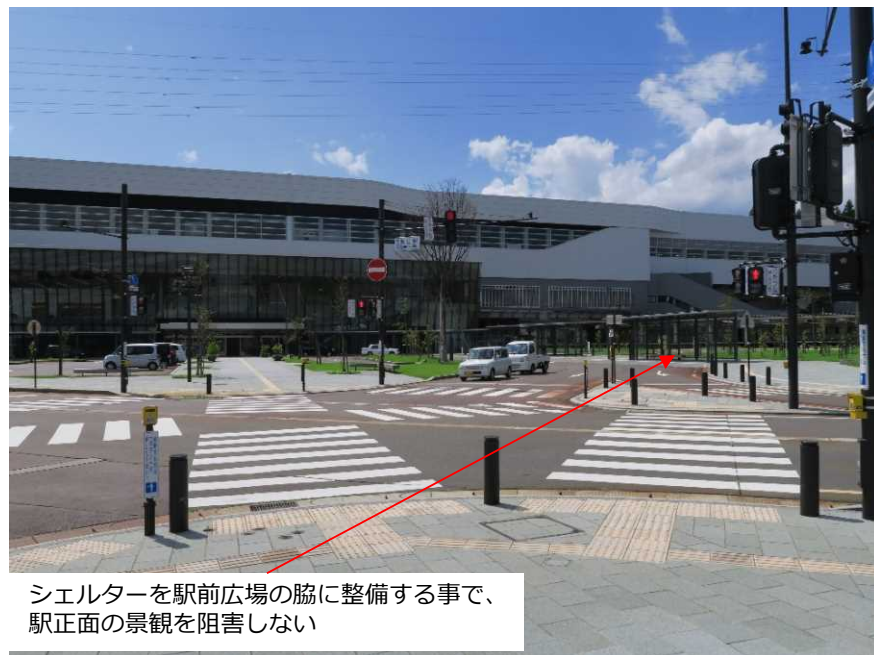
④送迎車用駐車場（一般車・マイクロバス）

3. 北陸新幹線飯山駅

(1) 駅前広場（千曲川口）について

- ・千曲川口 (8,000㎡)
- ・メイン広場、飯山駅の正面口
- ・高速交通網の拠点、交通結節点
- ・広域観光の玄関口
- ・一般車、マイクロバス駐車台数(兼用) 17台
- ・身障者1台
- ・身障者降車 1台
- ・タクシー降車 1台
- ・乗車 2台
- ・駐車 6台
- ・バス 乗降 3台
- ・駐車 5台
- ・緊急車両用 1台





①全景



②駅入り口からの景観



③都市施設とバス・タクシー乗り場の様子



④駅出入口

3. 北陸新幹線飯山駅

(2) 駅前広場（斑尾口）について

- ・斑尾口（4,000㎡）

【参考】駅前広場（斑尾口）の整備事業費

事業費：3.9億円（国費：1.2億円、市費：2.7億円）

※上記は整備費用（工事費用）となるため、別途、土地代6千万円かかっている。

【参考】駐車場の整備事業費

○立体駐車場 10億円（国費：1億円、過疎債：6億円、市費：3億円）

※整備事業費の内訳は、調査設計管理業務費0.3億円、用地費0.7億円、工事費9億円。

○平面駐車場 2.3億円（国費：0.3億円、市費：2億円）

※整備事業費の内訳は、調査設計監理業務費0.15億円、用地費0.7億円、工事費1.45億円。

- ・市街地西部方面からのK&R、P&Rの利便性確保
- ・効率的な駐車収容台数確保のため立体駐車場を整備

＜主な整備内容＞

- ① 駅西線（1-451号線） W=12m、L=185m（B区間）
- ② 斑尾口広場 A=4,000㎡
- ③ 駐車場 立体駐車場409台、平面駐車場73台
- ④ 斑尾口昇降施設 階段、エレベーター1基

使用区分	平面駐車場	立体駐車場
1時間以内	無料	無料
1時間を越え4時間以内	100円	200円
4時間を越え8時間以内	200円	400円
8時間を越え12時間以内	300円	600円
12時間を越え24時間以内	400円	800円
24時間を越え48時間以内	600円	1,000円
48時間を越える場合	600円に24時間まで毎に600円を加算	1,000円に24時間まで毎に1,000円を加算
定期利用	60,000円/年 ※飯山市民は36,000円/年	120,000円/年 ※飯山市民は60,000円/年



※斑尾口昇降施設のイメージ



修学旅行生の一時待機場所としても利用

①平面駐車場



②立体駐車場



冬期は扉を閉めるため、
雪が入ってこない

③シェルター



自転車利用は、主に在来線利用者
高級自転車（ロードバイク）の駐輪方法与屋根がないことが課題

④駐輪場

3. 北陸新幹線飯山駅

(参考資料) 駅前広場の千曲川口と斑尾口のシェルターについて



【駅前広場（斑尾口）のシェルター】

- 冬季期間は、利用者を吹雪から守るために、シャッターを下ろしている。
- シェルターの屋根の縁には電熱線が入っており、雪庇できないような仕組みとなっている。
- 屋根中央部は雪を載せておけるような耐雪構造となっているが、利用者の安全面に考慮し、雪下ろしを行っている。



【駅前広場（千曲川口）のシェルター】

- 駅前広場と同じ時期に整備した1～3番線乗り場のシェルターは、側面はガラス張り、屋根は融雪機能を持たせているため、雪は積もらない構造。
- 開業後に周辺市町村の要望により整備した4乗り場のシェルターは、予算的な条件もあり、側面はカーテン式ネット、屋根は耐雪構造となっている。

3. 北陸新幹線飯山駅

(3) 駅前広場（南口）について

- ・南口 (1,300㎡)
- ・周辺が住宅地であり、送迎車ロータリー機能は設けない
- ・公園広場的な空間





①公園的な駅前広場



②公園的な駅前広場に設置された石碑



③高架下空間



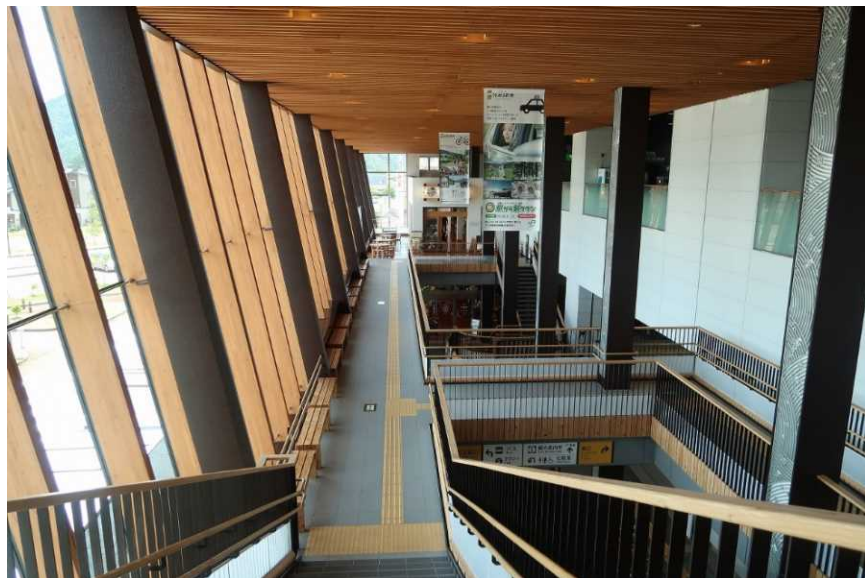
④新幹線駅舎と公園的な駅前広場

3. 北陸新幹線飯山駅

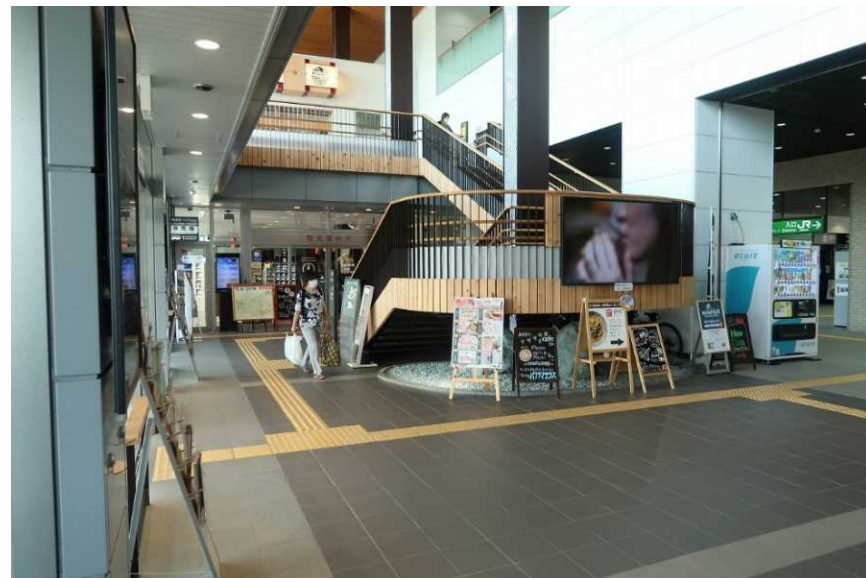
(4) 都市施設

- ・駅前広場（千曲川口）に整備。鉄構造2階建て、長さ60m高さ14mの施設。
- ・都市施設内に、エレベータとエスカレータを整備
- ・都市施設には空調設備がなく、冬場は少し寒い（個々の施設には空調あり）

【参考】飯山駅観光交流センター
（合築都市施設）の整備事業費
事業費：7.5億円
（国費：2.7億円、起債8千万円、市費：4億円）

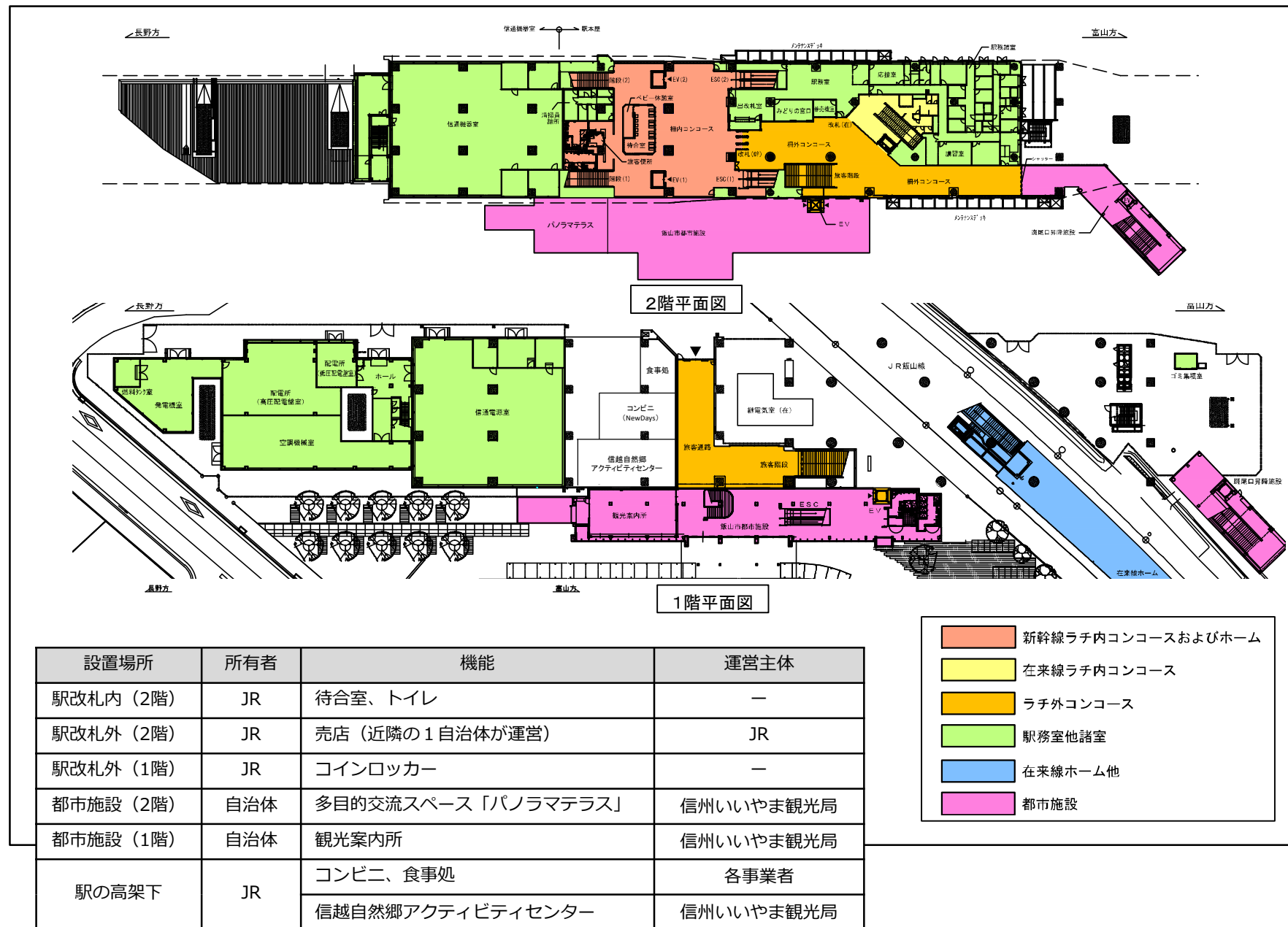


都市施設（2F）



都市施設（1F）

○飯山駅の鉄道施設と都市施設の位置と機能



○都市施設の様子



観光交流センター（コンシェルジュ）

飯山駅は広域観光（信越9市町村）のハブ機能を持つため、各自治体のプロモーション活動も行っている。



観光交流センター（販売）

取り扱っている商品は、観光交流センターの人達が探してきている。
→ 地域の人が集まる場所にもなっている。



アクティビティセンター（施設内）



E-BIKEやロードバイク、クロスバイク、シティサイクル等、趣向に合わせた様々な自転車レンタルを実施

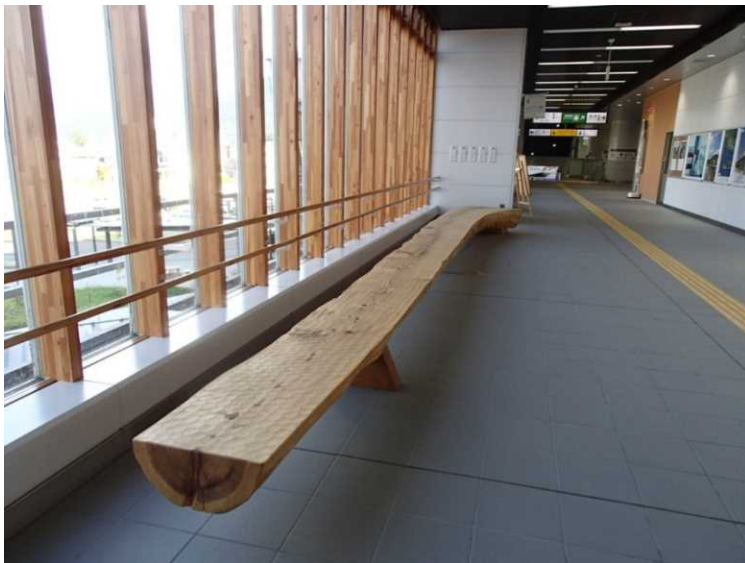
アクティビティセンター（施設外）

○地元素材の活用

- ・飯山駅では、長野県及び飯山市より県産木材の活用についての要望書を提出。建材木材（カラマツ、ブナ）を活用。
- ・飯山の伝統工芸品である「内山紙」という障子に使われる和紙も活用している。



手すき和紙を挟んだ壁面オブジェ



地元素材を活用した椅子、通路の内壁



行燈をイメージした光柱

【参考資料】飯山駅と倶知安駅の駅前広場の大きさ

北陸新幹線飯山駅駅前広場（千曲川口）
敷地面積：約8,000m²



北海道新幹線倶知安駅駅前広場（東口）
敷地面積：約7,500m²

